

上原記念生命科学財団

第12回 特定研究助成金 募集要項

1. 助成対象課題	「ヒューマンバイオロジーによる革新的医学研究」(別紙応募要領参照)															
2. 助成対象者	前項に掲げた研究に意欲的に従事する日本在住の研究者(単独研究でも共同研究でもよい。共同研究の場合は主たる研究者が応募すること。) 注) 民間企業に所属する研究者は対象外とする。															
3. 助成金額 および件数	(P) 1件 1,500万円 約5件 (S) " 900万円 約15件															
4. 助成金の交付方法	助成期間3年とし、次の通り分割交付する。 (単位:万円) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>初年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>P</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>500</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>S</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>300</td> <td>900</td> </tr> </tbody> </table>		初年度	2年度	3年度	計	P	500	500	500	1,500	S	300	300	300	900
	初年度	2年度	3年度	計												
P	500	500	500	1,500												
S	300	300	300	900												
5. 応募方法	当財団ホームページ(https://www.ueharazaidan.or.jp)の助成金 Web 申請のページより応募する。															
6. 応募締切日	2023年8月9日(水)															
7. 選考方法	当財団選考委員会において選考し、理事会で決定する。															
8. 採否の通知	2023年12月13日(予定)に採択者をホームページに掲載の上、採択通知を郵送する。															
9. 助成金の使途・ 使用期間	助成金の交付対象となる経費は、助成金交付から収支決算報告書提出期限までの約1年間に支払われる研究に要する物品の購入費用およびその研究の推進に必要な費用とする。 注) 当財団からの助成金(寄附金)は全額を研究費に充てていただく方針のため、所属機関へ支払う間接経費/オーバーヘッドに関しては所属機関内で免除手続等を行うこと。															
10. 助成金の交付	初年度は2024年1月~3月の間に贈呈し、2年度以降も同様とする。 但し、その贈呈式は2024年3月11日に行う。															

<p>11. 報告の義務</p>	<p>(1) 助成金受領者は、2026年に開催する国際シンポジウムの組織委員または講演者となって研究成果を発表する。シンポジウムは当財団が主催し、開催に必要な諸経費は財団が負担する。</p> <p>(2) 上記のほか、2024年（初年度）に研究計画発表会、2025年（2年度）に中間報告会を開催する。また、組織委員会を適宜開催する。</p> <p>(3) 下表の通り報告書を提出する。</p> <table border="1" data-bbox="534 719 1465 1133"> <thead> <tr> <th></th> <th>提出書類</th> <th>提出期限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初年度</td> <td>収支決算報告書</td> <td>2025年4月30日</td> </tr> <tr> <td>2年度</td> <td>収支決算報告書</td> <td>2026年4月30日</td> </tr> <tr> <td>3年度</td> <td>収支決算報告書 研究経過報告書 ※研究経過報告は当財団刊行の研究報告集に掲載する。</td> <td>2027年4月30日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 本研究の成果を公表する場合は、「公益財団法人上原記念生命科学財団（英文の場合は“The Uehara Memorial Foundation”）」の助成による旨を明らかにすると共に、刊行物に掲載した場合は、その写を当財団に提出する。</p>		提出書類	提出期限	初年度	収支決算報告書	2025年4月30日	2年度	収支決算報告書	2026年4月30日	3年度	収支決算報告書 研究経過報告書 ※研究経過報告は当財団刊行の研究報告集に掲載する。	2027年4月30日
	提出書類	提出期限											
初年度	収支決算報告書	2025年4月30日											
2年度	収支決算報告書	2026年4月30日											
3年度	収支決算報告書 研究経過報告書 ※研究経過報告は当財団刊行の研究報告集に掲載する。	2027年4月30日											
<p>12. その他</p>	<p>(1) 特定研究助成金受領期間中は、当財団の他の助成金への応募は不可とする。</p> <p>(2) 申請書に記載の個人情報、選考手続・選考委員への提供、選考結果の連絡および公表、当財団事業等の案内に利用することがある。但し、利用は目的の達成に必要な範囲で行う。</p> <p>(3) 当財団は研究助成金受領者の研究経過報告書を、研究報告集として印刷物および電子データ、当財団ホームページ、その他の方法をもって公表することができる。また、公益に資すると思われる公共のデータベースサービスに登録することもできる。</p>												

特定研究助成金応募要領（別紙）

<特定研究課題>

『ヒューマンバイオロジーによる革新的医学研究』

1. 目的

近年、生体分子に係る計測技術が飛躍的に進化し、ヒトのオルガノイドや生体チップ（Organ-on-a-chip）を用いた疾患研究が可能になり、コホート研究や臨床研究がヒトの健康に関するビッグデータと多くのリソースを生み出しつつある。すなわち、動物実験のみに依存することなくヒューマンバイオロジーに立脚した医学研究を展開するステージが整ってきた。これらの新技術やリソースに種間比較やモデリングのヒトへの応用を加え、下記の3つのサブテーマを柱として将来的に医療に直結する生命科学を推進する。

我が国のヒューマンバイオロジーに基づく医学研究を推進するため、対象とする疾患や臓器を絞らず、また、出口を睨んだ臨床分野の課題も含む広い分野から研究提案を募集する。

2. 対象となる研究

（1）新標的の同定を可能にする先端的分分子プロファイリング開発支援

まず、ヒト由来生体リソースに適用する各種の生体分子プロファイリング法の高度化と、新標的探索への応用を推進する。すなわち、ヒトの臓器や臨床サンプルに適用可能な高精度・高深度の単一細胞解析、空間オミックス解析などの技術革新を支援し、データマイニングを含めた高度化を図る。さらに、ヒトの検査データの中核を担う血液などから得られる生体分子情報の最大化を目指し、新標的探索、診断、治療法選択、予後予測などに活かす。

（2）疾患過程やヒト固有の生命現象の試験管内再現と応用研究

ヒト幹細胞から神経細胞や生殖細胞を作り出すことが可能になり、その応用研究も盛んになってきた。各種生命現象や疾患過程をヒト細胞由来の生体チップやオルガノイドにより再現し、それらに先端的分分子プロファイリング法を適用することにより、ヒトの組織や細胞における責任分子、診断マーカー、創薬標的分子などの探索を行う。がん細胞や疾患由来多能性幹細胞による試験管内やチップ内の生体再現を支援するほか、それらの品質や再現忠実度の検証、分子プロファイリングなどによる疾患研究への応用を後押しする。

（3）種間比較・動物実験・インシリコモデリングなどのヒトへの展開

脳機能や感染症の宿主特異性を理解するにはヒトを含めた種間比較と進化の観点が重要である。また、動物実験やインシリコモデリングにより提示された反応経路や疾患過程は、ヒトにおいて検証される必要がある。例えば、実験動物の母胎内で受ける環境ストレスが生後の疾患感受性に関与することが報告されているが、多くの場合提示されている分子経路のヒトにおける検証は不十分である。そこで、基礎研究で得られた成果をヒトからのデータ取得、コホート研究、診療リアルデータにより検証し、健康・医療への展開を図る研究を強力に推進する。

以上